

宮本武蔵

宮本武蔵（新免竹蔵、宮本辨助、法名二天道楽としても知られる）（1584 年頃 - 1645 年）

は、有名な剣豪、哲学者、戦略家、画家でした。彼の幼少期についてはほとんど知られていません

が、高砂の一部である米田で生まれたと考えられています。

武蔵は剣の腕前を磨き、二天一流の剣術を確立したことで知られています。彼はこのスタイルを用

いて生涯で 60 回以上の決闘に勝利し、当時最高の不敗の剣士となりました。最も近い候補者

である伊東一刀斎（1560 ～ 1653 年）であっても、わずか 33 回の戦いに参加したと言われ

ています。そのため武蔵は、伝説的な剣術の腕を持つ戦士に与えられる「剣聖」の称号を遺贈され

ました。

武蔵は晩年、戦略と武道の書である『五輪書』と、人生哲学を記した『独行道』を著しました。これ

らの本の中で彼は播磨国（現在の兵庫県の一部）で生まれたと述べています。この主張は、武

蔵の甥（後に養子）である宮本伊織（1612 年～1678 年）が武蔵を讀めて播磨国ゆかりの戦

士であったとする碑文を残したことでさらに強化されました。当時の他の文書は、武蔵と伊織が米田

で生まれたことを示唆しています。

伊織は建物の修復に際し、高砂市の米田天神社と加古川市の泊神社に棟札を奉納しました。札

には武蔵をはじめとする伊織の先祖がどのようにして米田に住むようになったのかが記されています。

これは武蔵が高砂で生まれたという説を裏付けるさらなる証拠です。

1990 年、有名な者である武蔵を讃えて、地元産の竜山石で作られた大きな石碑が米田に建てら

れました。記念碑の近くの建物には、彼の人生に関する数多くの遺物が収蔵されています。